

3 淡路地域の生産体系に適した中晩生タマネギの有望品種

ねらいと成果

淡路地域は全国3位、約10万tの生産量を誇るタマネギ産地であり、秋まき中晩生種の長期貯蔵を特色とする。晩生種の主力品種である「もみじ3号」は、吊り小屋貯蔵や2月ごろまでの冷蔵貯蔵に適し、一般の知名度、評価ともに高く、淡路を代表する品種である。しかし、「もみじ3号」の収穫期は入梅期の6月10日前後であり、また、三原平野の標準的な輪作では6月20日ごろに田植えが始まるため、生産者の間では、収穫期の早い品種を求める声が多い。そこで、品種比較試験の結果、6月上旬に収穫でき、冷蔵貯蔵も可能な中晩生種「D84」（七宝交配）を見いだしたので紹介する。

内容

2005～2007年の3年にわたり、当センター内の、牛ふん堆肥を年間2～3t/10a連用した水稲－タマネギ輪作ほ場（細粒黄色土、埴壤土）において試験を行った。タマネギを9月下旬には種したのち、露地セル育苗を行い、11月下旬～12月上旬に定植した。本ば施肥は、現地慣行の基肥＋追肥3回（窒素施肥量4+4+6+6=20kg/10a）とした。

「もみじ3号」に対する「D84」の相違点として、以下の点が明らかとなった。①草姿は立性で（観察）、葉折れがきわめて少ない（図1）。②収穫期が3～6日早く（表）、中生種の主力品種である「ターザン」に比しては4日程度遅い。③収量と貯蔵性は「もみじ3号」と同等あるいはそれ以上である（表）。④貯蔵時には外皮がやや剥離しやすいが（観察）、球の外観・形状が似る（図2、表）。以上のことから、「D84」は新たな貯蔵用品種として有望と考えられた。



図1 草姿と倒伏の様子（撮影 2007年5月中旬）

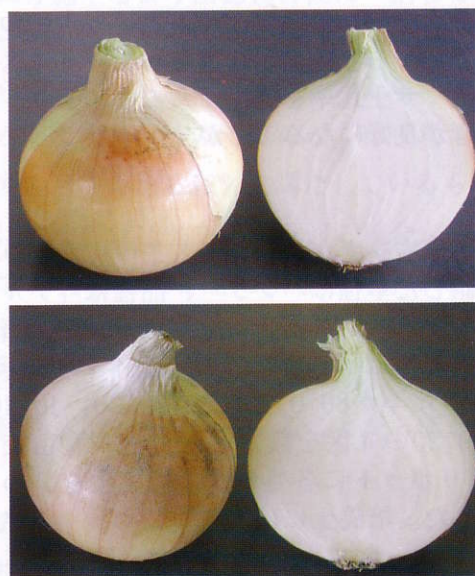


図2 収穫時の「もみじ3号」(上)と「D84」(下)

今後の方針

外観品質や内容成分、調理適性等について、より詳しい調査を行う。また、他品種に対する位置づけも考慮し、導入の可能性を検討する。

大塩 哲視（淡路農業技セ・農業部）
（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

表 収穫期、収量、球形、貯蔵性の比較（2005～2007年度、冷蔵貯蔵のみ2005～2006年度）

品種	収穫日 (月/日)	収量 (t/10a)	球形指数 (球高/球径)	貯蔵時の健全球率(%)*	
				吊り小屋	冷蔵
もみじ3号	6/9～6/14	7.7～9.0	0.96～1.00	70～82	28～70
D84	6/6～6/8	7.0～9.2	0.93～0.98	78～83	40～69
D84の特性**	3～6日前進	91～102%	わずかに扁平	同等以上	同等以上

* 吊り小屋貯蔵開始時を100%として算出。軽度の肩おちなど、不良球はやや厳しく判定。

冷蔵貯蔵は、吊り小屋貯蔵ののち、8月中旬から2月ごろまで入庫。設定温度：上限5～7℃、下限2℃。

** 「もみじ3号」に対する試験年度ごとの傾向又は比率。両品種を同一条件で栽培・貯蔵。

288～324穴セルトレイ使用、は種 9/25～9/28、定植 11/28～12/4(月/日)、栽植密度約27,000株/10a。